

各地区で敬老会開催



～支え合い助け合う

誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり～

社会福祉法人 横芝光町社会福祉協議会

〒289-1727 千葉県山武郡横芝光町宮川11902 TEL 0479-80-3611 FAX 0479-80-3651

E-mail info@yokoshibahikarishakyo.jp <http://www.yokoshibahikarishakyo.jp/>

福祉のまちづくり
作文・ポスター・標語

入選作品紹介

今年度は町内小・中学生から作文・ポスター、一般の部として町内高校生以上の方から作文・標語を募集したところ、計132点の作品が寄せられました。小学校の部・中学校の部・一般の部でそれぞれ入選作品が決定しましたので、ご紹介します。

作文の部

小学校の部 最優秀賞

「ぼくにしかできないこと」



横芝小学校3年

坂本 悠翔
さかもと ゆうと

ぼくのおじいちゃんなんでも直せてすごいんだ。家のドアがこわれても、テレビがこわれても、ぼくのおもちゃがこわれても、ドライバーを持ってあっという間に直してくれるんだ。

そんなおじいちゃんでも、なかなか直せないものもあるみたい。それは自分の病気。一年前にみつかつて今はその病気とたたかっている。入院や退院をしている今のおじいちゃんは、つえをついて歩いたり、ずっとイスにすわったりしている。

「じいじ。ただいま。」

と、ぼくが言うときをいたそうにおこしながら

「おかえり。学校楽しかったか。」

と、えがおで話してくれるけど、前みたいにドアやテレビやおもちゃを直してくれることはもうできないみたい。

トイレに行く時、つえをついて歩くけど周りの物がじゃまでなかなか進めないし、すわる時も、どこかにつかまらないとすわれない。おじいちゃんが病気になってから、色んなことがおじいちゃんの行動のじゃまをしているのにぼくは気がついたんだ。

トイレまでの場所においてある物は、つえがぶつからないように全部かたづけよう。イスの近くには、立ったりすわったりすぐできるように、つかまれるつくえをおいてあげよう。おじいちゃんはラジオを聞いたり、本を読むのが好きだから、近くに持っていつてあげよう。外に出かける時は、ぼくが前を歩いて、あぶない物がないかかくにんしてあげよう。

おじいちゃんが動きやすいようにしてあげるためには、ちよっとしたことでも手伝ってあげると助けになっているんだなあ、と思った。

おじいちゃんだけでなく、体の不自由な人は世の中にたくさんいるかもしれない。

目の見えない人や耳が聞こえない人、車イスの人

や手の不自由な人。ぼくには、助けを見つけれられる目も聞いてあげられる耳もある。車イスをおしてあげられる足も、ささえてあげられる手もある。ぼくができることをさがして行動すれば、いろんな人を助けてあげられるんだ。

まだ、どうしていいかわからないけどね。

「じいじ。ぼくお手伝いしてあげるね。どんなことがいい？」

「そうだな。悠翔がいつも元気で楽しくすごしてくれたら、じいじすごくうれしいし、助かるな。」

あ、そうか。いつも元気でいることも、おじいちゃんを助けてあげられているんだ。ぼくは、毎日おじいちゃんに元気いっぱいのおで会いに行っている。今、ぜったいぼくにしかできないこと。

小学校の部 優秀賞

「知ることからはじめるふく」



横芝小学校2年

八角 寛大
はつかく かんた

ぼくは、足がふじゆうな人や目が見えない人がいるということを始めて知りました。

そして、そういう人たちがどんな風に生かつをしているのか考えてみました。

足がふじゆうな人は車イスをつかわないと いどできないのに、とおるみちに かいだんがあった

ら、すすめないから ほかのみちをさがさないとい
けないし、みちに じてん車や車がとまっていたら
よけてとおらないといけないので大へんだと思いま
した。ぼくにできることは、車いすで こまってい
る人を見かけたら近くににいる大人にたすけてもらえ
るように言ったり、自分も気をつけることだと思い
ました。

目が見えない人の気もちを知るためにぼくは、目
をつぶってあるいてみました。すると、ゆかに も
のがあっても気づくことができないので ころびそ
うになったり、あるきづらくてこわかったです。

ぼくにとっては あたり前のことでも、目が見え
ない人にとっては大へんなことがたくさんあると思
います。だから、そういう人たちのことをもっと知っ
て力になりたいです。そしてみんなが、車いすの人
がこまっていたら たすけられるように車いすのつ
かい方を知ったり、耳のきこえない人とも話せるよ
うに手話をおぼえたりできる きかいがもつとある
といいと思います。

体のふじゆうな人にとって、あるけないことや目
が見えないことは、ぼくにとって にがてなことが
あることと同じだと思えます。だから、ぼくが に
がてなことでもがんばってできるようにするのが同
じように、体のふじゆうな人でもできないとあきら
めるのではなくて、どうしたらできるのかをみんな
でいっしょにかんがえて、できる方ほうを見つけて
いけたらいいと思います。

ぼくにできることはすくなくかもしれないけど、
ぼくにだってできるふくしのことを考えて見つける

ことから始めていきたいです。

小学校の部 佳作

「大好きなじいじ」



横芝小学校2年

なかさ
仲佐 柊哉

「じいじ、このはたはどこの国だ？」

「アメリカでしょ。」

「うん、あたり。」

ぼくは、今国きを おぼえるのがおもしろくてじい
じと国きあてクイズをよくしています。他にもオセ
ロゲームやまるばつゲームをしたり、しょうぎを教
えてもらったりします。ぼくが長なわが とべなかつ
た時は、にわに くいを うってロープを回して
「いいか、なわが上にいったらすぐに入ってとぶん
だぞ。」

と、入るタイミングを教えてくださいました。ぼくが
いとこの ともやと にわで遊ぶのを にこにこし
ながらいつも見ています。

畑でやさいを作って、ぼくたちにおいしいやさい
を食べさせてくれます。ぼくは、じいじが作る や
さいの中であまくておいしいトマトが一番好きです。

じいじは、週一回お友だちとテニスをしています。
子どものころからずっとつづけていると聞いて、「す
ごいな」と思いました。テニスをしているじいじは

かっこいいです。ぼくもテニスが じょうずになり
たいです。

いつも元気でやさしいじいじが大好きです。これ
からもずっと元氣なじいじで いてもらえるように
ぼくもお手伝いをしようと思います。

畑でやさいを育てたり、とったりする時は水かけ
や とったやさいを運んだりするのを手伝います。
じいじが、

「柊哉が手伝ってくれてうれしいよ。」

と言ってくれるので、ぼくもうれしくなつて ます
ますパワーアップします。

おふるからあがつて、つかれた顔をしている時に
かたたたきをしてあげると、

「ああ、いい気持ちだ。ありがとう。」

と、ぼくの手をやさしくなでてくれます。つかれて
いる時だけではなくて、もっとかたたたきをしてあ
げようと思いました。

おいしいものをたくさん食べて、ずっと元氣なじ
いじでいてほしいです。

ぼくが大きくなったら、じいじの好きなテニスを
いっしょにしたいです。畑の草かりをじいじにか
わってしてあげたいです。りょこうにもいっしょに
行きたいです。じいじといっしょにやりたいことが
たくさんあります。教えてほしいこともいっぱいあ
ります。だから、いつまでも元氣でいてほしいです。
大好きだよ、じいじ。

「支え合いの輪」



横芝中学校2年

ひらやま
平山 鈴乃

「大丈夫ですか、分かりますか。」

私は六月下旬に横芝光消防署で普通救命講習を受けた。そこでは、胸骨圧迫の仕方や呼吸の有無の確認、AEDの使い方などを学んだ。この講習を受けたきっかけは、大好きな医療ドラマの影響だ。でも、実際にやってみると、ドラマに出てくる医師や看護師のように素早く判断し、心肺蘇生を行うことは難しかった。特に、胸骨圧迫は水平に力強く押すのにとっても苦戦し、何度も挑戦した。

その講習には私以外にも、夫婦や親子、私と同じ他校の中学生、社会人の女性など約十人程度が参加していた。休憩時間の時にその女性が、

「以前、駅にいた時に突然倒れた人がいて、動揺して何もできなかった。その時、自分にもできることはあったのに助けられず、悔しい思いをした。」と参加理由を話してくれた。

そういえば、下校の時に学校の目の前の公園で、男性が倒れているのを先輩と見つけたことがあった。その男性は明らかに体調が悪そうだったので、声をかけた方がよいのだろうと思ったが、私が声をかけ

られずにいると、先輩は迷いもせずに男性の所に行って声をかけた。その様子を見て、他の先輩は先生達に知らせようと校舎に戻り職員室へ向かった。私といえば、動揺して何もできずに先輩に全て頼ってしまった。

あの時、自分には何ができたのだろうか。なぜ、具合の悪い男性にすぐに声をかけられなかったのだろうか。講習を受けた女性の気持ちと自分の気持ちは同じだった。

町には様々な人が生活している。そして、その様々な人が快適に生活できるように点字ブロックや優先席、スロープといった設備が整っている。それは町に住む大人達が、誰もが幸せに暮らせるようにという願いで設備管理してくれているのだと思う。あらゆる大人が誰かを大切に思い支え合っている。

大人だけではない、中学生の私にもできることはきつとあるはずだ。バスや電車に乗った時に席を空けること、困っている人がいたら声をかけること。小さなことかもしれないが誰かのために行動できる自分になりたい。「何もできない」ではなく、「できることがある」という思いと優しさをもち続けたい。そんな私の次の目標は上級救命講習を受け、「自分ができること」を増やすことだ。

講習の中で消防署の方が、傷病者の命を救うことは命の連鎖だと言っていた。「支え合いの連鎖」があるならば、誰かが誰かによって支えられ、その支えも誰かに支えられていることだ。大人や子どもなどの年齢は関係なく、誰もが自分にできることがあるはずだ。小さな「できること」は必ず誰かの支えに

なっている。私の町には支え合いの輪が大きく広がっている。

「周りに目を向ける」と



光中学校3年

こしかわ
越川 虹海

夏休みが始まり、私は久しぶりに会う従妹と伯母と駅で待ち合わせをした。電車を降りた時に、大きく手を振る従妹の姿が見えた。再会後、従妹と伯母と私は人気の観光スポットに行くために電車に乗った。電車は満員で座る場所もなく、伯母は保育園児の従妹を連れ、重いベビーカーを抱えていた。満員電車にベビーカーを乗せるのは本当に大変で、時間もかかった。というのも、保育園児の従妹が迷子にならないよう、伯母は片方の手で従妹の手を握っていたため、ベビーカーを片手でしか持てなかったからだ。私が、

「手伝うよ。」

と言っても、心配性で優しい伯母は「大丈夫だよ。」

としか言わなかった。そんな時、電車に乗ろうとしていた一人の男性が、ベビーカーを電車に乗せてくれた。伯母は無事に電車に乗ることができ、心底ほっとした様子で、男性にとっても感謝していた。助けて

くれた男性も嫌な顔せず、むしろ嬉しそうな顔を
して電車に乗った。

帰りの電車も、決して空いていたわけではないが、
なんとか無事に乗り込むことができた。全員が座れ
る席はなく、伯母は一番疲れているはずなのに私達
に席を譲って、一人立っていた。私は一番小さい子
を抱っこして、人が多い電車の中で席に座った。何
駅か進んだ時、伯母が

「もうすぐで降りる駅だから少しだけ立っていられ
る？」

と私に尋ねてきた。私は、すぐに

「大丈夫だよ。」

と答えた。その時、私は伯母の意図に気づくことが
できなかった。伯母が妊婦さんに声をかけるまでは
――。お腹はまだ目立っていないかった、妊婦さんの
鞆には、妊娠していることを示すマタニティマーク
のキーホルダーがついていた。席を譲られた妊婦さ
んは遠慮していたが、伯母が笑顔で

「ゆっくり休んでくださいね。」

と声をかけると、妊婦さんも

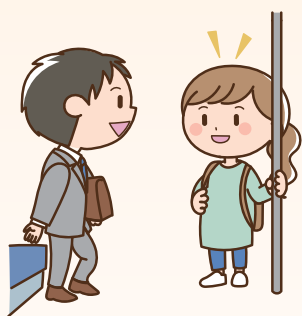
「ありがとうございます。助かります。」

と言って席に座った。座った後、妊婦さんは相当疲
れていたのか、すぐに眠ってしまった。もしあの時、
妊婦さんに気づくことができていなかったら、妊婦
さんはきつと無理をし続けていたと思う。

知らぬ男性が当たり前のように助けてくれた姿。
妊婦さんに気づき、席を譲った伯母の気遣いと優し
さ。それらの光景は、私に大きな気づきを与えてく
れた。私も含め、多くの人が自分のことで精一杯に

なってしまう、周りのことに目を向ける余裕がない
のかもしれない。しかし、今回経験したように、ほ
んの少しの行動が誰かの助けになるということを忘
れないことが大切だと思う。私は一人ひとりが思い
やりの心を持ち、少しずつ助け合うことで、この社
会は明るく良い社会になっていくのだと強く感じた。
満員電車で困っている人を見かけたら、誰でも助
けることができる。それは、重い荷物を持つことに
手を貸すことや、電車やバスの中で席を必要として
いる人に気がつき、席を譲ることかもしれない。今
回のように、妊婦さんのキーホルダーに気がついて
声をかけるような小さな配慮が、相手にとってはと
ても大きな助けになることがあるということを知
ることができた。

私は、世界中に相手を思いやった言葉が溢れ、全
員が自信をもって「本当に幸せ」と言えるような社会
を作っていきたい。今の私にできることは少ないか
もしれないが、できることから始めていきたいと思
っている。困っている人がいたら、自分から積極
的に声をかける。席を譲る。そして、日ごろから感
謝の気持ちを人に伝える。そうした小さな行動の積
み重ねが、社会をより良い方向へ導いてくれるのだ
と信じている。



中学校の部 佳作

「かけがいのない存在」



横芝中学校2年

かわかみ

河上

たまえ
珠依

私の祖父は、二〇二二年十月に病気で亡くなりました。
九十四歳でした。祖父は戦争も経験していま
したが、ほとんど話してはくれませんでした。残酷
で悲しい時代だったので忘れたかったのかもしれない
と思います。祖母は東京生まれで、千葉に疎開に
来たことを時々話をしてくれました。トウモロコシ
がとっても美味しかったことが忘れられないと言っ
ていました。そのことを聞いて育ったので、私はト
ウモロコシが大好きです。私は祖父のことを「じじ」
と呼んでいました。歳の離れた従妹がそう呼んでい
たからです。じじはとてもお洒落で、近所に買い物
に行くにも髪をとかして、きちんとした服に着替え
て行くような人だったので、私はじじがとても好き
で自慢でした。しかし、そんなじじが、ある時「財
布がない…」と騒ぎ立て家じゅうを家族みんなで探
しました。結局財布はあったのですが、その場所は
なんと靴箱でした。今考えると、じじの認知症の始
まりだったのだと思います。じじはとても優しい人
でしたが、認知症のせいで時々乱暴な言葉遣いにな
ることがあり、祖母と喧嘩をしていて心配をしたこ

ともありました。母が仲裁に入り収まったのですが、とても怖かったことを今でも覚えています。私はあの時、まだ小学生だったのを見て、こじか出来ませんでした。じじの認知症はどんどん進み、祖母と母で介護をしていました。オムツの交換やお風呂の介助などとても大変そうでした。私も何回かじじのお風呂の手伝いをしたことがあるのですが汗びっしょりになりとても大変でした。家族でも身体全てを綺麗にすることは簡単なことではないことを体験しました。

しかしある日ケアマネジャーという方が家に来て、家の中が一転しました。じじは週に三日デイサービスに行き、色々な方と触れ合い、お風呂にも入れてもらいスッキリして帰ってくるようになったのです。じじと祖母の喧嘩も減り、家族の笑顔が増えました。

じじはその後脳梗塞を起こしてしまい病院での生活となってしまいましたが、ケアマネジャーはその後も母の相談につてくれ、色々力になってくれました。私はあの時コロナ禍で何もできなかったことを後悔していました。しかし、母は「じじといつも沢山話をしてくれたことやママの愚痴を聞いてくれたことがとっても助かったよ。ありがとう。」と言ってくれました。

介護が必要な家族がいると、正直とても大変だと思います。でも、何気ない日常でも笑ったり怒ったりしながら、支えあい助け合い家族の絆が深くなり、かけがえのない存在になるのだと思います。いままでは話を聞くことしかできませんでしたが、いままでの経験を生かして、介護の必要な人がいたら、手

を差し伸べて助けてあげられると思います。その勇気をじじがくれたのだと確信しています。じじ、天国から見ていてね。



ポスターの部

小学生の部 優秀賞



横芝小学校3年

桜井 俐緒



小学生の部 優秀賞

上堺小学校4年

伊藤 海羽



小学生の部 佳作



横芝小学校3年

永藤 璃久翔



標語の部

一般の部 優秀賞

伊藤多華子 (古川)
いとうたかこ

声かけて
横芝光の
笑顔咲く

一般の部 優秀賞



林 慶子 (古屋)
はやし よしこ

生きのびて
友と逢う日の
福寿会

一般の部 佳作



高田 和之 (芝崎)
たかだ かずゆき

広げよう
みんなとつなぐ
福祉の輪



作文の部

一般の部 優秀賞

「安心して暮らせる町」

鈴木きみ江 (白磯)
すずき え



皆さん、毎年の健診を受けられていますか。私は、健診が本当に大切だと、身を持って体験しました。それは、六年前に受けた健診で、血液検査に異常が見つかり、再検査を促す結果でした。早速に、かかりつけ医のさくらクリニックを受診し、検査した結果やはり異常が見つかりました。先生は、紹介状を書きますので、どちらの病院にしますと、たずねられました。その時分は、さんむ医療センターの耳鼻咽喉科にかかっておりましたので、そちらへの紹介状をお願いしました。

後日、さんむ医療センターを受診し、くわしい検査を受けました。センターの先生は、専門的に設備のある病院を、受診して下さいと話され、旭中央病院宛の紹介状を、書いて下さいました。

旭中央病院では、CT検査やペット検査等いろいろやりました。その結果は右尿管内にステージ3寄りの腫瘍が見つかり右側の腎臓は全く機能していません。出来るだけ早くの手術をした方が良かったですよ」と告げられました。しかし自覚症状も無

かったので、すぐには信じる事は、出来ませんでした。先生に「このままで手術を受けなかったら、どうなりますか」とたずねた所、「このままの状態で治療を受けなければ命に関わりますよ」と言われました。

その診断から、家族とも相談し十月の手術を決めました。丁度、日本中が、コロナ禍で大変な事になる前の年でした。

大きな手術なので、ネット等で色々調べた結果、不安な事柄があったので、病院に電話で問い合わせした所、すぐに担当の先生から二度もていねいな説明をいただきました。その説明に納得し、手術を受ける決心をしました。

十月の台風上陸の前日に受けた手術で、右腎臓、尿管を摘出し膀胱の一部を切除しました。その後抗がん剤治療を二度受け、膀胱への転移で腫瘍切除も二度受けました。術後三年過ぎには、頻繁に腸閉塞をおこして、四度入院し治療を受けました。その都度、妹や主人に世話に成りました。特に妹には大変な思いをさせました。でも頼りにしていた妹が膝を痛めて入院し、手術を受ける事になりました。いままでは、私の体調不良の時には、救急車の手配や入院の支度等、いつもてきぱきとこなしてくれました。症状の軽い場合は自家用車で、旭中央病院の救急外来まで連れて行ってくれ付き添ってくれました。困った時はいつも妹に助けられていたのです。妹の他には、気安くお願い出来る人は無くて、本当に大変だと思いました。そうしている時に、妹が「役所に相談したら良い方法が見つかるかも」と言ったので早速にお話を聞いていただきました。すると窓

口で、そういうケースの場合は、「緊急通報システム」を利用できますよと、おしえていただきました。急病、怪我等の緊急時はもちろん、健康相談にも応じて下さるそうです。緊急ボタンや寝室に置いてあるペンダントのボタンを押すとすぐに対応してもらえるそうです。月に一度の安否確認の電話連絡もあります。これでひと安心です。その他に週一度の配食サービスも利用出来て助かっています。でも緊急通報システムを利用するには、二名の協力員をお願いしなければならぬのです。それで御近所さんをお願いしたら快く引き受けて下さり有難かったです。そしてボランティアあじさい会を通じて、お友達になつた方々にも励ましの言葉をかけていただいても嬉しかったです。闘病の糧になりました。本当にありがとうございました。

人は、独りではなく、いろんな方々のおかげで生かされているんだと、つくづく感じました。いろいろと力を貸して下さい下さった皆様、本当に感謝です。ありがとうございました。



7地区社協合同 レクリエーションスポーツ大会 実施！

令和7年11月29日(土)に町体育館で、7地区社協(大総・横芝・上堺・日吉・南条・東陽・白浜)の運営委員が集合し、誰でも気軽にできるレクリエーションスポーツ大会を実施！

今回で3回目となるレクスポ大会は、全8種目で、新たな競技の追加もあり大いに盛り上がり、他地区の運営委員同士交流を深めることができました。



▲みんなで息を合わせて大小15個の風船をうちわ・座布団・ファイルを使って外へ！

▶色々な種類の物を乗せて、バランスをキープ！

